

令和3年度全国標準学力検査(NRT)結果の概要

1 全国標準学力検査 (NRT) について

【調査の目的】

子どもたちがこれまでの学習活動を通して獲得した基礎的、基本的な力や活用する力について把握、分析し、今後の学習指導の充実と学習状況の改善に役立てます。

【実施について】

対象学年：小学校4、5、6学年 中学校1、2、3学年

実施教科：小学校 国語 算数 理科の3教科

中学校 国語 社会 数学 理科 英語（1学年は除く）の5教科



2 今年度の結果

令和3年度 全国標準学力検査の結果					全国の学力偏差値を50として比較します				
小学校	国語	算数	理科	中学校	国語	社会	数学	理科	英語
4年	48.0	48.9	46.7	1年	48.7	46.6	48.4	47.5	
5年	50.3	50.3	48.8	2年	47.9	47.8	47.7	48.1	49.9
6年	48.2	49.0	47.4	3年	48.0	48.2	49.3	48.8	49.1

印なし：概ね全国並み（49以上～51未満） ▽：全国平均をやや下回る（47以上～49未満） ▼：全国平均を大きく下回る（47未満）

3 経年比較

※全体＝全教科の合計



4 特に成果がみられた問題

数値は通過率（通過率＝正解人数÷受験人数×100）単位：％

平成31年度と比べて、通過率に改善が見られた問題	比較		結果
(小5:理科)冷たい液の入った容器の周りに水滴がつく理由と同じものを、他の日常現象の中から選ぶ問題	H31市 41%	R3市 70%	+29%

5 特に課題のあった問題

正答率＝正答数÷受験数×100 単位：％

全国比：全国＝100

令和3年度に正答率が低かった領域	正答率		全国比
(中1:国語)工夫して話し、感想や考えを持つ領域（書くこと、話すこと）	R3 全国 47.5%	R3市 40.2%	85%

6 考察

今年度は小中学校の理科に改善が見られました。これは、課題の把握、検証計画の立案を通して実験や観察を丁寧に行い、結果を考察する過程で、予想を立てたり、意見をまとめたりする授業を行ったこと、また、ICT機器を活用して動画や写真で実物を確認したり、疑問に思ったことを調べたりする授業を行ったことが考えられます。

一方、他の教科は昨年度を下回りました。改善に向けて、タブレット PC を最大限に活用し、協動的な学びが実現できるよう、教員の更なる授業力向上を図っていきます。